

全体質疑

異常時の前泊許可の有無に不公平感

●野坂 隼人（広島地本）
●乗務員以外に手当をつけ不公平感をなくしてほしい。
●異常時の前泊について許可が下りる箇所と下りない箇所があるなど不公平感が出ている。



金田委員



松田委員



植田委員



岩崎委員



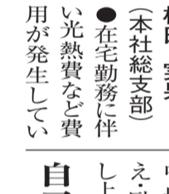
李澤委員



西野委員



松田実果



大鍋委員

●組体の拡大をお願いする。
●青年女性委員会の組合員数減少に伴う課題について、考えがあれば教えてほしい。

●作業責任者は、線路の保守を行っているが、手当は1000円と低い。業績が回復した暁には手当について議論をしてほしい。

●適性検査の不合格などで作業責任者や列車見張員ができなかった場合は、補充をお願いする。



野坂委員



奥中委員



宮崎委員



内田委員

●業績が回復した暁には手当について議論を！
●奥中 潤（大阪地本）
●青女としてリモートの機材を購入してほしい。

●在宅での手当の意味を考える
●松田 実果（本社総支部）
●在宅勤務に伴い光熱費など費用が発生している。

●米子地本選出の役員を支えていただき感謝する
●金田 応紀（米子地本）
●米子地本から選出された中央本部の役員を2年間支え励ましていただき感謝を申し上げます。

●「バスフォーラム」に鉄道の方の参加を！
●岩崎 拳斗（中バス地本）
●バス業界をより知ってもらうためにも、「バスフォーラム」に鉄道の方も参加いただきたい。

●モバイル端末の進化に新幹線駅券売機が乗り遅れ
●植田 誠也（大阪地本）
●モバイル端末の進化に新幹線駅の乗り換え改札の券売機が対応していない。みどりの券売機の機能改善や発売条件の緩和などを要請したい。

●努力に見合った賃金体系の構築を
●西野 翔悟（本社総支部）
●現行の給与体系では、C層在籍時に評価昇給を積み上げようとしても、I職に昇職した際リセットされてしまう。努力に見合った賃金体系を構築してほしい。

●安全お守り手帳の活用法の勉強会を
●李澤 亮汰（大阪地本）
●安全お守り手帳について、活用し議論する勉強会の開催を要請する。
●支社をまたぐ移動が常態化しているのに、寮の変更や新幹線通勤が認められない。

●育休の1期間1度という制限を撤廃してほしい。
●大鍋 歩夢（和歌山地本）
●育休の1期間1度という制限を撤廃してほしい。
●グループ外出を本当に希望しているのか。個人面談で「非自民反共産」という言葉があることを理解してほしい。鉄道業界は政治と密接な関係がある。

●月例賃金の安定した確保が最も重要
●福本企画部長
●賃金実態調査について、WEB化についても、今後議論をしていきたい。

●自己研鑽を奨励へ
●宮崎 祐毅（神戸地本）
●魅力と求心力のある組合活動について、中央本部としての見解を教えてください。通勤超勤について、通勤

●「非自民・反共産」の削除を
●内田 教詞（京都地本）
●雇用調整助成金の詳しい内容について教えてください。

●福知山市へ車椅子の贈呈
●昨年強化期間を設け、取り組みを進めてきたブルタブ回収ボランティアで交換した2台目の車椅子を福知山市に寄贈した。

●福知山市へ車椅子の贈呈
●昨年強化期間を設け、取り組みを進めてきたブルタブ回収ボランティアで交換した2台目の車椅子を福知山市に寄贈した。

●福知山市へ車椅子の贈呈
●昨年強化期間を設け、取り組みを進めてきたブルタブ回収ボランティアで交換した2台目の車椅子を福知山市に寄贈した。

●福知山市へ車椅子の贈呈
●昨年強化期間を設け、取り組みを進めてきたブルタブ回収ボランティアで交換した2台目の車椅子を福知山市に寄贈した。

●福知山市へ車椅子の贈呈
●昨年強化期間を設け、取り組みを進めてきたブルタブ回収ボランティアで交換した2台目の車椅子を福知山市に寄贈した。

答弁

●1歩目を踏み出させるよう背中を押す
●渡邊副委員長
●組織改正について、不安を解消しつつ議論をしていく。

●NSのあり方は、賃金昇進制度と併せて考えていく。
●遠隔MVについて、お客様に理解して利用いただけるよう会社へ訴えている。

●深夜業務制限、短時間制限について、年齢の延長・多系統への拡張・8日の導入など交渉で訴え続けている。
●手当てについて、過去の積み重ねもあるが、このままではいいと思っていない。

●異常時の前泊について、現場長によって対応が違うのは問題であり、言いにくい場合は分会を通して改善の方向に進めてほしい。

●人間ドックは、受診率が低い。ため、会社も年齢の引き下げには慎重になっている。
●意識調査について、必要であれば全地本・総支部で行うことは可能である。賃金実態調査に盛り込む方法もある。

●政治に関して、「非自民・反共産」の言葉は無くてもいいのかもしれないが、労働組合という組織で考えると一定の方向性は必要である。
●出向者へのフォローについては、会社に対しては強く訴えかけていく。
●岡山地本は、コロナ禍でも積極的に様々な活動を行っている。その活動内容・方法なども共有してほしい。

●組合活動のデジタル化について、ろうきんを利用

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある
●沖島事務局長
●レクリエーションの動員について、1人で参加することが不安であれば相談してほしい。
●ダイバーシティ女性の設備について、どのような設備が必要なのかを上げてほしい。
●青女について、年齢制限の引き上げや支部の合同などは考えていない。
●一時帰休について、雇用調査が出ていることもあるが、交渉により100%保証されている。
●運輸系統と工務系統の意識の差について、職場の中や基本組織を交えてコミュニケーションをとってほしい。

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●異常時の前泊について、現場長によって対応が違うのは問題であり、言いにくい場合は分会を通して改善の方向に進めてほしい。
●人間ドックは、受診率が低い。ため、会社も年齢の引き下げには慎重になっている。
●意識調査について、必要であれば全地本・総支部で行うことは可能である。賃金実態調査に盛り込む方法もある。

●政治に関して、「非自民・反共産」の言葉は無くてもいいのかもしれないが、労働組合という組織で考えると一定の方向性は必要である。
●出向者へのフォローについては、会社に対しては強く訴えかけていく。
●岡山地本は、コロナ禍でも積極的に様々な活動を行っている。その活動内容・方法なども共有してほしい。

●組合活動のデジタル化について、ろうきんを利用

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある
●沖島事務局長
●レクリエーションの動員について、1人で参加することが不安であれば相談してほしい。
●ダイバーシティ女性の設備について、どのような設備が必要なのかを上げてほしい。
●青女について、年齢制限の引き上げや支部の合同などは考えていない。
●一時帰休について、雇用調査が出ていることもあるが、交渉により100%保証されている。
●運輸系統と工務系統の意識の差について、職場の中や基本組織を交えてコミュニケーションをとってほしい。

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

●安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
●長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
●様々な場面で手当について議論をしている。
●鶴石委員長
●在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
●田中情宣教育国際部長
●女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
●安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
●川原業務部長
●労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

メインスローガン

「創造」

形式にとらわれず新しい活動を創ろう！

「参加」

労働組合はみんなのものだからみんなで参加しよう！

「実践」

言うだけでは何も変わらない。言ったからには実践しよう！

サブスローガン

- ◆新型コロナウイルス感染症に伴う社会環境変化に対応した活動を展開しよう！
- ◆JR西労組の必要性を認識し、みんなの安全と働きやすい職場環境を築き上げよう！
- ◆明るく・楽しく・元気良く！共に支え合う仲間の輪を広げよう！
- ◆一人一役・全員主役！全員参加でJR西労組運動を継承しよう！

◆異常時の前泊について、現場長によって対応が違うのは問題であり、言いにくい場合は分会を通して改善の方向に進めてほしい。

◆人間ドックは、受診率が低い。ため、会社も年齢の引き下げには慎重になっている。
◆意識調査について、必要であれば全地本・総支部で行うことは可能である。賃金実態調査に盛り込む方法もある。

◆政治に関して、「非自民・反共産」の言葉は無くてもいいのかもしれないが、労働組合という組織で考えると一定の方向性は必要である。
◆出向者へのフォローについては、会社に対しては強く訴えかけていく。
◆岡山地本は、コロナ禍でも積極的に様々な活動を行っている。その活動内容・方法なども共有してほしい。

◆組合活動のデジタル化について、ろうきんを利用

◆安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
◆沖島事務局長
◆レクリエーションの動員について、1人で参加することが不安であれば相談してほしい。
◆ダイバーシティ女性の設備について、どのような設備が必要なのかを上げてほしい。
◆青女について、年齢制限の引き上げや支部の合同などは考えていない。
◆一時帰休について、雇用調査が出ていることもあるが、交渉により100%保証されている。
◆運輸系統と工務系統の意識の差について、職場の中や基本組織を交えてコミュニケーションをとってほしい。

◆安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
◆長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
◆様々な場面で手当について議論をしている。
◆鶴石委員長
◆在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
◆田中情宣教育国際部長
◆女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
◆安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
◆川原業務部長
◆労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

◆安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
◆長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
◆様々な場面で手当について議論をしている。
◆鶴石委員長
◆在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
◆田中情宣教育国際部長
◆女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
◆安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
◆川原業務部長
◆労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

◆安全お守り手帳は、活用することに意味がある。
◆長距離移動について、面談などで状況を伝えてほしい。
◆様々な場面で手当について議論をしている。
◆鶴石委員長
◆在宅勤務が定着しつつある中、様々な場面で手当については議論をしていく。
◆田中情宣教育国際部長
◆女性活躍の現状やワークライフバランス関係制度を、会社と議論をしていく中で現場の声を届けてほしい。
◆安全配慮義務をクリアしない限り副業はできない
◆川原業務部長
◆労働協約について、大混乱の中でも対応できたのは皆さんが

ピンチはチャンス。改めて労働組合の必要性・魅力を発信しよう

沖島事務局長 総括答弁

22名の委員から56件の質疑を頂いた。皆さんのこれまでの真摯な取り組みをこの場だけのものにせず、これからの活動に展開していくことを約束する。

総括答弁は青女活動の一点に絞る。

昨年度は、コロナ禍で思うような活動ができない中、感染症対策を実践しながら、少しずつ前進することができた。改めて皆さんに敬意を表したい。

準備だけで終わってしまった活動もあり、非常に悔しい思いをしたが、それが全て無駄に終わることはない。何度も集まり、どうすればより多くの「仲間づくり」を行えるか、議論した時間は必ずこれからの運動・人生に直結するものだと思ってい

私たち青女委員会は、「仲間づくり」を最大の目的に明るく・楽しく・元気よく活動を展開してきた。

なぜ「仲間づくり」に励むのか今一度考えてほしい。個人の時間を大切にすることも大事だが、仕事をすることでも一人だけできることはほとんど無く、みんなが一つのものを作り上げているという思いがある。

自分が仕事をすることにあたって、より安全な環境で働きたい、よりよい環境で働きたい、困ったことがあるけど誰に相談したらいいかわからない、そういったとき力になるのが仲間である。系統・会社に限らず、様々な人と繋がり、この人が困っているから助けたい、自分が困ったところこそ改善してもらおう、そういう思いがある。

た思いが一つひとつ繋がって労働運動になる。その一つひとつの繋がりを広げていくために「仲間づくり」がある。

まずは自分たちが楽しむこと、そして様々な人に組合に触れてもらうことを大事にしてほしい。

コロナ禍の対応や賃金関係職場環境の改善は、役員1人では何もできない。みんなで築き上げ作っていくものである。

このような状況下での組合不要論なる言葉に断固異議を唱えたい。このような状況下だからこそ組合は必要なのである。ピンチはチャンス。改めて労働組合の必要性・魅力を発信しよう。



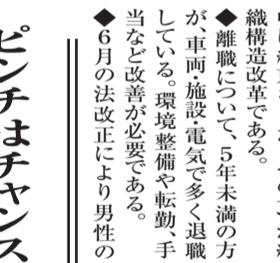
川端総務・財政・政策部長



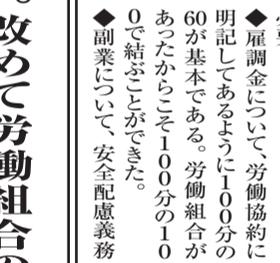
石田原組織・政治・福祉対策部長



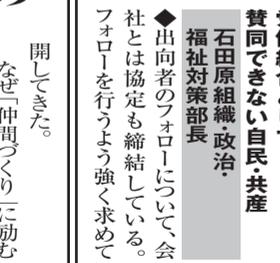
田中情宣教育・国際部長



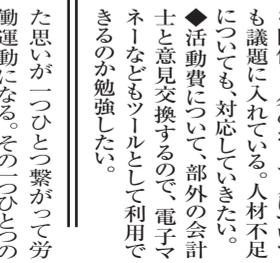
川原業務部長



鶴石委員長



福本企画部長



大鍋委員